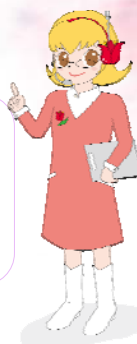


① 今回は、大学院生から学群生に向けて、レポートや論文を書くときに役立つ文献探索法をご紹介します。①



図書館情報メディア研究科大学院 博士後期課程1年 佐藤 翔さん

論文やレポートを書く前には、選んだテーマに関連する論文や図書を調べる(文献探索)が必要です。文献探索の方法の一つに、重要そうな文献を見つけたら、その中で引用されたり、参考文献に挙げられた文献を探し、さらにその文献の引用・参考文献を辿る...ということを繰り返す、「芋づる式」探索があります。芋づる式の文献探索は関連文献を網羅的に探索することができる、強力で基本的な文献探索法です。

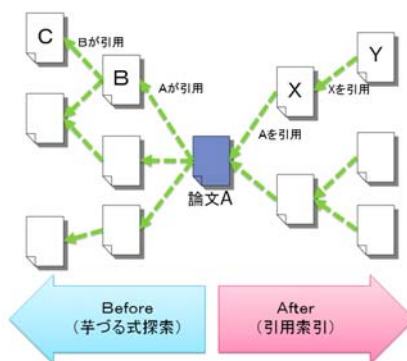
しかし芋づる式探索には弱点もあります。ある文献が引用できるのは、その文献より前に発表された文献だけです。どんどん過去に遡って文献を探し、探索が終わって研究を進め論文を書き終わった...という時になって、実は最初に選んだ文献のすぐ後に、その文献の後を引き継いだ研究が発表されていたことに気づいたら? その内容が自分の研究内容と被っていたら? レポートなら評価が落ちるだけで済みますが、卒業論文でそんなことになったら...

このような事態を防ぐための強力なツールが「引用索引」です。引用索引とは、ある論文が他のどの論文に引用「されたか」をまとめたリストです。過去に向かってしか文献を辿れない芋づる式探索とは異なり、引用索引を用いれば最初に見つけた論文よりも後に発表された論文を辿ることが出来ます。いわば、「未来に向けた芋づる式探索」ができるのが引用索引です。

最初の引用索引はまだ今のようなコンピュータも普及していない40年以上も昔、1963年にユージン・ガーフィールドという人がアメリカで発表しました。この最初の引用索引は紙に印刷されたリストでしたが、現在では紙ではなくコンピュータで、ただのリストではなくキーワード等で検索で

きるデータベース(DB)として使えるようになっています。とはいえ、引用索引の基本的な考え方は今も40年前と変わりません。ある論文を起点にしたとき、「その論文が」引用している文献を辿るのが芋づる式探索、「その論文を」引用している論文を辿るのに使うのが引用索引DBです(もちろん引用索引DBで芋づる式探索も出来ます)。引用索引DBによって、文献の過去と未来に広がる、文献同士の膨大なつながりが見えるようになったのです。

筑波大学で契約している主な引用索引DBにはWeb of Science(ガーフィールドが最初に作った引用索引の後継DBです)、SCOPUS(筑波大学ではトライアル中)等があります。また、無料で使えるGoogle Scholarにも同じように引用索引としての機能があります。いずれもTulipsのトップページからアクセスできるので、ぜひレポート・論文を書く前に使ってみてください。



参考文献

- ・Garfield, Eugene. Citation indexes for science: A new dimension in documentation. Science. 1955, vol.122, no.3159, p.108-111.
- ・窪田輝蔵. 科学を計る: ガーフィールドとインパクト・ファクター. インターメディカル, 1996, 220p

とにかく使ってみる

データベースへの入り口は、  
図書館 Web サイトの「データベース一覧」



<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

春の講習会も開催中

図書館では、データベースの利用法や図書館の使い方について様々な講習会を開催しています。

たとえば中央図書館では・・・  
**外国語論文の探し方講習会: Web of Science**

4月27日(火)14:00-15:00

5月21日(金)15:30-16:30

場所: 中央図書館コミュニケーションルーム(本館2階)

開催スケジュールのご案内や参加申込受付は図書館 Web サイトで行っています。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/guidance.php>